



教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし



メッセージ

エゼキエル書 37章 1～14節

土曜日のキリスト



大木英夫

「賽の河原」を越えて行く橋

「何を見に出て行ったのか(マタイ11・7)。
いま、現代の日本全土にこの言葉が響き渡る。今までは救いを必要としない時代であったのか。人間の実相が隠蔽されていたのか。軽い、生き方が軽い。何もかも軽い。そこに突然、「地の基なるい動く」、眼の前に広がるのはなんとという崩壊であるのか。なんと戦後日本は軽く壊れやすかったことか。

仏教学者山折哲雄氏は、故郷東北を訪ね、荒涼惨憺たるむき出しの光景に圧倒されてこう言った、「賽の河原だ!」。それでは、ただ無常を受け入れ耐えるのみか。「あきらめ」が所詮大事ということか。
「何を見に出て行ったのか」「賽の河原」という言葉が、突然思い出された。ある年わたしはスイスのバーゼルに居た、バーセル美術館で、ルターと同時代の画家ホルバインの描いた『墓の中に横たわるキリスト』がある、それを見に行き、二度も見に行き、この絵の前に二度も立った。はじめは、とても直視できなかった。この絵

の間、その土曜日のキリストを描いたのだ。しかしそれは金曜日から日曜日へ深い陰府に架けられた橋か、全身を硬直させ、上を見上げ、口を開いて横たわる!死を生きている! このキリストが「賽の河原」を越えて行く橋なのだ。

今、日本は、土曜日にいる
戦後、哲学者務台理作から聞いた今なお忘れられない言葉がある。ヘーゲルの「有↓無↓成」の弁証法はキリストの「生↓死↓復活」から来ると解説したのだ。「生老病死ではない、死で終わらない、一自転車が止まるとは倒れる、その倒す力を媒介として前へ動く、動いて立つように、その「立つ」は立つは立つでも「立ち」が違ふ、否定媒介!

ルターは「義にして同時に罪人」と言った、その「同時」が、何と誤解され誤用されてきたかというところ、義と罪とは渾然空回りを起こして「大胆に」そして「平気で」罪を犯す、ミユンツァーが「甘いキリスト」と批判した、それだ。しかしこの絵にはその「甘さ」はない、「同時」ではない、深い陰府の中に刻々たる一日、その一日の中にキリストが横たわる。何か神に迫られるように感じ

人生は仏教的「生老病死」の永遠回帰ではない、その永遠に閉ざされた円環が開かれて、よみがえりへ、動く。ペンテコステへと動く。土曜日のイエスの死の中にある動き、それが、人間に究極の転換を惹き起こす動きの中に動きがある。選びがある。ホルバインの描くその口は、「渡って行け、そして甦れ、そして聖霊を受けよ!」と語るように開いている。いま、日本は、そういう土曜日にいるのだ。向こう岸に渡る、主との「コイノニア」、そのときの「霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で架けられた橋のように、鋼鉄のように緊張して身を横たえている土曜日のイエス

此岸を彼岸へと動かす力

この大震災の直前まで、東京下町に建設中の世界一高いスカイ・ツリー塔完成間近で見物の人々で賑わった。その地の出身王貞治氏は「このあたり一帯は敗戦の年の3・10～11の大空襲で焼野原になったところだ」と戒めた。あの関東大震災後軍国主義的に再建された日本はこうして潰滅し、これまた「賽の河原」の景を呈した。今そこに建つ「スカイ・ツリー」は古代の五重塔の「心柱(シンバシラ)」の工法を応用した。日本にタテの心柱工法で新バベルの塔を造ることではない。フリーゲルは『バベルの塔』の崩壊の絵を描いた。いま人間世界に起こっていることは、「ヒト」はヒューマニズム、「グローブ」はグローバルイズ、新しい人間新しい世界への転化ではないか。人間、世界、文明はその新しい建築にヨコ、の心柱をもたねばならない。人生史、世界史、グローバリゼーションは、ヨコの「心柱」によつて新築されねばならないのではないか。賽の河原から向こうへと渡す「土曜日のキリスト」は「ヨコの心柱」、この「救済史」的「心柱」をもって再構築されねばならない。あなたがたにはこの世ではなやみ

「お前たち、?」あの谷の「枯れ骨」とは、あの「賽の河原」とはこのわたしたち? 他人ごと他所ごとではない、たしかに昔も今も永遠にいましたもう神が、わたしたちに問われている、「一人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。今われわれ日本の伝道者の耳に來るのはこの言葉、ものすごく低音で重く響くようなこれは、神の問いかけの言葉ではないか。預言者エゼキエルはこう答えた。そう答えるしかなかった。「主なる神よ、あなたのみがご存じます」。では「主なる神」はどう答えられたか。「見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。」

「お前たち、?」あの谷の「枯れ骨」とは、あの「賽の河原」とはこのわたしたち? 他人ごと他所ごとではない、たしかに昔も今も永遠にいましたもう神が、わたしたちに問われている、「一人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。今われわれ日本の伝道者の耳に來るのはこの言葉、ものすごく低音で重く響くようなこれは、神の問いかけの言葉ではないか。預言者エゼキエルはこう答えた。そう答えるしかなかった。「主なる神よ、あなたのみがご存じます」。では「主なる神」はどう答えられたか。「見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。」

がある、しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている(ヨハネ《口語訳》16・33)、「勇気」とは向こうへ行く力ではないか。いまわれわれはおびたらしい死者と共に居る。しかし預言者イザヤは神のことは伝える、「わたしはあなたたちをつくった。わたしが担い、救い出す(46・4)、そして使徒パウロは「わが生くるはキリスト、死もまた益」(ペリピー・21文語訳)を知った。パニヤンはキリスト者の人生を『天路歷程』(Pilgrims Progress)とみじくも「旅する者たちの前進」と呼ぶ。トレルチは「彼岸が此岸の力である」と言う。「わたしは道である」、その道に動きがある。此岸を彼岸へと動かす力が感じられる。

人生史、世界史の深く内面に横たわるあの土曜日のイエスには「ヨコの心柱」の啓示があるのではないか。「霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立つた。彼らは非常に大きな集団となった。」
グローバリゼーション! 世界は教会になりたがっている。だから教会は教会にならねばならない。ねがわくはわが教団にこの預言の成就あらんことを。
(聖学院大学大学院長)

ハンス・ホルバイン [1497 ~ 1543]
アウクスブルク生まれ。ドイツ・ルネサンス最後期の代表的画家で、ヨーロッパ絵画史上最高の肖像画家の一人と言われる。トマス・モアやヘンリー8世の肖像画がある。他の代表作に『聖母子と市長マイヤーの家族』『死の舞踏』
絵は、バーゼル市美術館所蔵、ドストエフスキーにも深い感銘を与えた。



受允者(左 3 人)、受按者(右 3 人)を紹介する岩崎議長

2011 年度

教区総会報告

神奈川

京 都

総幹事

4

教師免職処分への抗議、処分撤回議案可決

法定議案を除けば、関心の多くは「教師免職」問題に向かい、この関連議案及び報告での質疑に、大半の時間を費やした。

教団問安使の挨拶を受けて、何故本人に対しても資料の開示をしないのか、質問状を送った教区教師委員会にも何の回答もない」と疑問が述べられた。雲然俊美教団書記は「資料の開示は教団教師委員会の判断に委ねられており、開示しない方針を回答している。要望は伝える」と答えた。

更に、総幹事報告に関連して、「戒規問題は終結したかのような表現が見られ、教団新報にも同様の記事がある。本人への取材もない記事で誤報だ」との主張には「終結とは仮処分申し立て事件の終結。新報の記事は担当者で確認する」と応じた。

問安使挨拶では他に、「伝道に力を入れるのであれば、キリスト教教育主事に関する文章を議長挨拶にいられたらいい」と強い要望も述べられた。

「各種委員選任の件」で、委員候補に北村慈郎氏の名前があったことから、激しい議論が起った。あきらかに教規違反だ。長く伝道していても准議員の人が多いのに、何故、違反者が常置委員会推薦で正議員か」と反対意見が述べられ、これに対して岩崎隆教区議長が「各委員は信徒でも教師でもない。免職になった教師なら教規違反でも、信徒としてならよい」と答えたことからも、教師は職が解かれたら信徒なのか、北村氏の代務先教会での身分の問題、更に免職に伴う年金削減など、争点が拡がったが、議論はかみ合わない印象だった。要は、教会史的に教会論的に法的に常識的な事柄なのか、そうではないのかという対立だった。

「北村慈郎教師の免職処分への抗議ならびに処分撤回を求める件」では、「第37回で教区提案の議案を取り上げずに門前払いにした」「教憲教規には明確に未受洗者陪餐を禁止する条項はない」「教師委員会が戒規申立をしたこと自体が第36

158中動議は33で否決、修正案が86で過半数を僅かに超え可決された。その他では、「議長は、准允・按手執行の採決の前に『教師検定試験に對し不当とまでは言えないが』と回を求める理由として上げられた。この一々に反対と賛成の論拠が上げられ、この中で、『提案理由』と共に記された問題の所在の(1)で、『聖餐』のあり方について『教憲・教規』は何も定めていない」と断定していることから、この議案に賛成の立場からも「明確ではないであって、何も定めていない」とまでは言えない」とする意見が述べられ、結果的には、(1)を削除する修正案と、採決せず継続にする動議とが出され、



神奈川

京都、今期も問安使受人拒否

新報取材も拒否



京都

京都教区 第75回(合同後区定期総会)は、5月3日、4日京都教会で開催された。2004年以来、教団問安使受人拒否を続けている京都教区であるが、その間も、教団新報の取材については公式に受け入れてきた。しかし、今年は、常任常置委員会での決定に基づいて総会取材を拒否する。ついでに、報告記事も教区にてまとめて提出したい」旨の申し入れが、京都教区より文書にてなされ

た。編集委員会では対応を検討したが、京都教区だけを他とは違う取り扱いにすることはできないとの結論にいたり、記者を派遣することとした。

記者は京都教会に赴き、総会開会前に教区三役と協議したが、常任常置委員会の決定を覆すことはできないとの主張をあらためて聞き、教区の状況その他を踏まえて、これ以上の交渉はできないと判断した。ただし、教団新報編集委員会の立場から「教団新報の記者

が派遣され、議場まで来たが、常任常置委員会の決定に従い、退席したことを、議場に報告し、議事録にとどめること、ならびに教区による報告記事掲載することとできないこと」を申し入れ、教区三役はこれを了承し、履行することを約束した。

これらの経過を経て、記者は議場には入らず、取材を断念した。以下、選挙結果のみを掲載する。

【議長】井上勇一(洛南)、

修正案が86で過半数を僅かに超え可決された。その他では、「議長は、准允・按手執行の採決の前に『教師検定試験に對し不当とまでは言えないが』と回を求める理由として上げられた。この一々に反対と賛成の論拠が上げられ、この中で、『提案理由』と共に記された問題の所在の(1)で、『聖餐』のあり方について『教憲・教規』は何も定めていない」と断定していることから、この議案に賛成の立場からも「明確ではないであって、何も定めていない」とまでは言えない」とする意見が述べられ、結果的には、(1)を削除する修正案と、採決せず継続にする動議とが出され、

4月28日の四国を皮切りに始まった教区総会は6月25日の神奈川を最後に17教区全てが終了した。いま、今年度の各教区総会をふりかえって課題のいくつかを記してみようと思う。

て、強力にすすめるべきであるというのが各教区総会での共通した結論だった。教団救援対策本部が基本方針の中で主題を『地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して』としたこの方向で長期にわたって救援活動をすべきである。

教勢減退傾向について

信徒数、礼拝出席者数、受洗者数が各教区とも漸減しており、それに伴って献金額も低下し、教会の財政力が弱体化の傾向にある。このことはここ数年

来見られることで、教団全体として真剣に打開策を考えていかねばならない。端的に言って妙案はない。わたしたちが信仰の原点に立ち帰り礼拝を充実させ、キリストの福音を力強く語っていくほかはない。『名言葉にはあなたがたの徳をたて：聖別されたすべての人々と共に、み国をつくる力がある』(使徒行伝20章32節・口語訳と確信)して…。

教区総会を振り返って

東日本大地震被災教会救援をめぐって

各教区総会で法定議案以外では最も多くの時間を費やして協議された事柄である。

東日本大地震の被災教区は奥羽・東北・関東の3教区である。地震・津波・原発事故からくる放射能汚染という三重の被害を受けた諸教会とその地域への救援について熱心に話し合われた。被災3教区と支援する教区が教団を通して共に密接に連絡を取りあい、教団として取り組むべき支援・教区ができる支援をそれぞれ明確にし

建議・請願の取り扱いについて

教規施行細則第4条の2にあるように、本来建議は議員でない教師や信徒が教団や教区の教務や行爲について建設的提言をするものであり、請願も教務機関の処置に対して希望を訴えるものである。

それなのに議員である者が建議や請願の提案者になり、それを教区総会議長が受理し、更に議案として取上げられるのは明らかに教規違反である。議員は正規の手続きを経て議案を提出するべきなのである。今後はこの過ちを改めねばならない。

教団と教区との関係について

それぞれの教区の宣教活動に特徴が見られるのは事実である。それは教団がキリスト教会としての豊かさを示しているとも言えるが、一つ間違えると教団は教区連合体のようになってしまふ恐れがある。

教団が先にあるべきではない。教団が先あって信仰告白、教憲教規に基づいて教会形成がなされていくのである。

宣教活動を有効にすすめていくために17教区が置かれているということ、を、わたしたちは正しく認識していなければならないのである。

(教団総幹事 内藤留幸)



▼高速道路のSA、券売機でラーメンを注文。粉類から入りラーメン・醤油、目

当ての品にタッチ。確認下さいという音声案内に、目を凝らして探す。しかし確認ボタンはない。後ろにせかされる気がして、次をタッチ。券が出た。確認とは目視確認らしい。▼券を、粉類のカウンターに出すと、「未だ出ていません。」「えっ」と戸惑う。券を購入した段階で注文は済んでいた。薬局のように、番号が掲示される。粉類の窓口へ、「未だ出ていません。」「えっ」と戸惑う。券は現在調理中の番号。色がかわって、「〇〇の番号の方は、窓口までどうぞ。▼合理的なのかも知れない、慣れれば。次に利用する時にはシステムが変わっていないければ。▼電車の券売機の札投入口に、硬貨を一系列に並べている老人を見た。合理的だとしても、老人には生きにくい社会だ。▼社内公用語を英語とする会社が増えているそうだ。日本人が日本語で生活出来ないなんて耐えられない。もう、日本を脱出するしかない!英会話を勉強しなくては!

お詫・訂正

教団新報4726号2面、東中国教区総会報告記事、常置委員選挙結果【信徒】松田章義(鳥取)、太田直宏(岡山)、土井しのぶ(高梁)にお詫びして訂正いたします。

今年 7 月開催予定の協議会 開催断念

第9回三国間協議会実行委員会

第9回スイス・韓国・日本
本の三國間協議会実行委員
会は、4月11日(月)に教
団会議室で開催された。
冒頭から、東日本大震災
を受けて、今年の協議会自
体が開催可能かどうかが話
し合われた。

まず参加予定各国からの
反応が、担当幹事から報告
された。スイス、韓国両国
からは、教団はこの未曾有
の災害への対応に集中して
欲しいとの励ましをいただ
いた。しかし同時に、福島
の原子力発電所からの放射
能漏れに対する憂慮がある
ことも表明されており、今

年の協議会開催は延期することが現実的ではないかということであつた。

次に日本側の受け入れ態勢についても話し合われた。協議会ではアジア学院へのフィールドトリップが計画されていた。しかし、震災の影響で、アジア学院は多大な被害を受け、非常に厳しい状況であることが報告された。

また実務的なことについては、加藤謙幹事が、東日本大震災の救援対策本部担当幹事の働きを担うことになり、差し迫つた7月の協議会への対応ができなくな

る可能性があることが報告された。

以上の状況を踏まえ、実行委員会は、今年7月の協議会開催を断念することとした。そして震災からの復興を考えると、教議会自体を、2年先を目処に延期することが妥当であるとの結論に達した。

なお、今年の開催を目指して組織された実行委員会は、この9回目の会をもつて一度解散し、今後の取り扱いについては、世界宣教委員会にゆだねることも合わせて決定された。

(木村太郎報)



左から、野田、李、加藤(幹事)、田中(委員長)の各委員

間の日程で開催予定の「Love Taiwan」へは、日本から参加者を立てる（？）とができなかった。震災の影響や日程的に大学生の参加が困難ではある為だが、広報の課題も含め、反省である。

最後に、震災における台湾基督教長老教会の祈りと素早い対応に最大限の謝意を表すとともに、主にある相互の繋がりを心から喜びたいと思う。

（野田沢報）

事務局報

教師異動

富士見町辞担 橋本いずみ
西宮一麦 辞(主)大石健二
就(主)橋本いずみ

關西学院高等部

辞教澄田 新
辞担川台 望
金沢八景 辞(主)井上喜雄
就(主)川台 望
岡山 辞(主)井上孝仁
就(主)井上喜雄

事務局報

11年3月19日、逝去。82歳。岡山県に生まれる。'49年日本基督教神学専門学校を卒業、'50年洗足教会に赴任、'54年より'99年まで江戸川松江教会を牧会し、隠退した。遺族は息・久山康彦さん（在外教師）。



真平さん（和泉多摩川教会
主任担任教師）。

久山隼兒氏（隠退教師）

08年2月26日、逝去。95歳。東京都に生まれる。'69年日本聖書神学校を卒業、和泉多摩川教会を'68年（伝道所開設、'77年2種教会設立）より、'03年まで牧会し隠退した。遺族は息・山室



山室 光氏(隱退教師)

消息

八尾	辭代)辻中昭一	〃	辭担)平本善一
〃	就主)井上孝仁	農村伝道神学校	
豊橋東田	辭主)細川 修	辭(神)君島洋三郎	
名古屋	辭担)佐藤智子	〃	辭教)渡辺兵衛

富士見町	就担	佐藤 簀子	高座渋谷
北千住	辞代	平沢 功	辞(兼主) 君島洋三郎
〃	就主	平沢 功	就主 君島洋三郎
江東	辞主	高崎芳輝	目白
〃	就代	小森裕之	池袋西
			辞担 小西 淳

洗足	辭主	橋爪忠夫	愛知病院	辭教	今城慰作
〃	辭担	洪 德憲	宇治	辭担	安森智司
〃	就主	洪 德憲	大津	辭担	高田 太
千葉本町	辭担	矢澤新一郎	塚口	辭担	筒井省行
南板橋	辭主	明星 晃	宝塚	辭担	石川はるみ
弓町本郷	辭担	山口和憲	坂出大浜	辭主	上野清次郎
早稻田	辭担	飯島隆輔	扇町	辭担	望月達朗

城西	辞主安田俊朗	天満	辞担南	豊
〃	就主飯島隆輔	松井田	辞代藤	秀彦
会津若松	辞主島典英	〃	就主南	豊

倉吉	就(主)山口和憲	吾妻	就(主)上林順郎
〃	辞(主)高橋英美	〃	就(主)望月達朗
袋井	就(主)安田俊朗	高崎南	辞(主)倉橋克人
〃	辞代)野村 稔	東京聖書学校吉川	辞担)片平貴宣
	就(主)高橋英美		

燒津	辭代	瀬谷	寛	山梨八代	辭主	大矢真理
〃	就主	細川	修	〃	就主	片平貴宣
佐久	辭主	宇田	真	玉島	辭主	丸尾雅俊
岩村田	辭主	濱田政秀	〃	就主	倉橋克人	就主
〃	就主	宇田	真	箕面東	辭代	黒米理恵
勝沼	辭主	坂元	高	〃	就主	丸尾雅俊
〃	就代	船戸良隆	長居	辭主	福島義也	就代
富士見高原	辭主	白砂誠一	〃	就代	市川和恵	

平良川	辞(代)比嘉盛二郎	勝
〃	就(主)荒又敏德	〃
西原	辞(主)山田裕	島之内
三崎	辞(主)生野隆彦	大阪住吉
		就(担)中尾勉
		就(主)福島義也
		辞(担)中尾勉
		就(担)中尾勉

就(主)藤崎裕之	江差
就(主)高塚和彦	〃
就(主)町頭良行	〃
就(主)高塚和彦	〃
就(主)福田英樹	〃
就(主)谷本公義	〃
就(主)谷本公義	〃
就(主)竹ヶ原政輝	〃
就(担)竹ヶ原政輝	〃
就(担)足立麻子	唐津

榎美林	辭(担)柳原鐵太郎	長崎學院	辭教大野惠正	富里	辭主内田汎	長崎	辭(代)星野江里香
〃	就主内田汎	杵築	辭(主)吉新治夫	大宮前	辭(代)吉岡光人	〃	就主福田英樹

三宅島伝道100周年

記念礼拝と伝道リサیتال

6月13日(月)～14日(火)、三宅島にプロテスタントのキリスト教が伝えられ、伝道所が立てられてから100年経ったことを記念する集会が行われた。集会は記念礼拝と島の人への伝道を兼ねた、森祐理リサیتالを二本の柱として行われた。

この会は三宅島伝道が100周年を迎えることを覚え、東京教区東支区の中で実行委員が立てられ、その後1回の礼拝のために本州から牧師が訪れた時に実務が行われるという形で準備された。

間に海を挟む形での準備の時は、陸続きの中では考えられない手間や労苦を生んだという。2月には東支区書記(当時)である国府田祐人牧師(荒川教会が島を訪れ、ノアの方舟の出来事を通して力強く励まし

を語った。4月から島の施設に赴任するため、礼拝に新しく加わった方もともに主の食卓を囲み、三宅島伝道の希望が失われていないことが確認された。今回の集会は、そのようにして関わった本州の牧師と島の信徒の交わりの賜物だとも言える。

三宅島は、度重なる雄山の噴火により、何度も伝道が困難になったり、中断されたりする中、100年間伝道の火がともされ続けてきた。1983年の噴火では会堂が溶岩の熱によって焼失、2000年以後、まだ安全が確認されず、居住許可が下りていない。現在は更地の状態で建築許可が下りるのを待っている。

そのような中でも信仰の火を点し続けている二人の姉妹と、籍を移していないが礼拝に出席している信徒たちを中心に、礼拝が献げられた。

100周年

記念の礼拝では、自身もマケドニア会に属する木下宣世東京教区議長(西千葉教会)が、スカンジナビア・アライアンスの日本における伝道の創生期の活動について語った。伊豆、伊東、千葉における伝道を担うことになったスカンジナビア・アライアンスの宣教師の思い、都市部には他教団がすでに入っている状況でなんとか日本人にキリストを伝えたいという熱意が伝えられ、その意志がマケドニア会に受け継がれ、今も活動が続いていることが語られた。

その後、同じ伊豆諸島に属する伊豆大島の竹井真人牧師(波浮教会)によって、三宅島にスカンジナビア・アライアンスにより伝道が開始され、伊豆大島に次いで教会が建てられ、伊豆諸島に対する伝道の拠点としての役割を担ってきたこと、特に保坂松太郎牧師が定住してから教会内の集会だけでなく、若い母親のための会なども開かれ、一時は多くの人が教会に集

うようになったことなどが紹介された。来賓の三宅村長も、自身が幼い頃、教会学校の生徒であったと挨拶の中で語り、三宅島の教会の働きの思い出を語った。

東支区長として長く代務者を務めた、河合裕志牧師(新横浜教会)は、プログラムの表紙の双葉の写真を指して、現在三宅島伝道所に在籍する2名の姉妹のようだと語り、この時を迎えた感激を語った。

森祐理姉のリサیتالには教会外の島民が20名以上訪れ、姉の歌と語りに耳を傾けた。姉は讃美歌やゴスペル以外にもキリスト者の作詞や作曲による童謡を紹介し、阪神大震災で弟を亡くした経験、神様にあって弟が別の場所で生かされているという確信を与えられ、被災地で歌うようになったことを証した。

その後、同じ伊豆諸島に属する伊豆大島の竹井真人牧師(波浮教会)によって、三宅島にスカンジナビア・アライアンスにより伝道が開始され、伊豆大島に次いで教会が建てられ、伊豆諸島に対する伝道の拠点としての役割を担ってきたこと、特に保坂松太郎牧師が定住してから教会内の集会だけでなく、若い母親のための会なども開かれ、一時は多くの人が教会に集

うようになったことなどが紹介された。来賓の三宅村長も、自身が幼い頃、教会学校の生徒であったと挨拶の中で語り、三宅島の教会の働きの思い出を語った。

上から、阿古の会堂跡地で。三宅島伝道所の「双葉」2人の姉妹。神様の愛を熱唱する森祐理姉。



原町教会、原町聖愛保育園への緊急支援

原発 30km 圏内で、礼拝を守り、子どもたちを守る



石橋議長、朴牧師と原町教会役員の方々

と働きを知ってもらうためにも、情報を発信する必要を強く感じさせられた。

早速、調査員は、救援対策本部の各委員に対して、原町教会の調査報告と共に具体的な支援の提案を行ったところ、救援対策本部各委員の了承が得られ、高橋和人東北教区議長に連絡の上、直ちに緊急支援が行われることとなった。

この緊急支援の内容は、原発事故の深刻な影響下にあって礼拝の群を守り、地域の人々の救いのために伝道・牧会に励んでいる原町教会の朴貞蓮牧師の生活と活動の支援へ200万円を、また、同じ状況下で地域の子どもたちとその保護者たちに、遊び場・交わり

の場・相談の場を提供して原町教会と協力して地域のために奉仕している原町聖愛保育園の保育士・職員の方たちの働きのための緊急支援金として1,000万円をお献げするというものである。

調査の翌週の6月10日、石橋秀雄教団議長に藤盛幹

ことさえできない。4月に着任した朴牧師も、携帯電話とワンセク(携帯の地デジ受信機能)が唯一の情報手段という。岩手や宮城では、津波の被害を受けた沿岸部もこの3ヶ月の間に、瓦礫もかなり片付けられつつある。ところが浜通りでは、手つかずの所が目立ち、陸上に流された多くの漁船が、道路沿いに残されたまま。津波で損壊した建物も、取り壊すことさえできず、不自然で危険な状態で立ったまま。

南相馬市の30km圏内に住む子どもたちは震災後、圏外の学校にバスで通うことになったが、そのバスは道路を塞ぐ大小の船を回避しながら進む。ふつうでは想像もせず思ひもしないはずの光景を、子どもたちは現実として毎日見せられた。これが子どもたちの心に深く食い込んで、その体にも予想もなかった影響を及ぼしているという。

それは、この地域に戻ってこざるを得ない事情がある保育園に集まってくる子どもたちも同様だ。就学前の幼児たちを円形脱毛症や拒食症、不眠といった症状が襲っている。もちろん、保護者たちの不安も、この放射能の影響が言われる地方独特のものがある。原町教会の役員一人が、「私たちはモルモットです」と言う。あるいは、「何十年後の研究のためのサンプルにされていると感している」、とも。

原発から20km～30kmの間の「境界の地に住む人々の思いは複雑だ。子どもや病人は「立ち入らないことが強く求められる」。しかし、それにもかかわらずこの地域に戻ってこざるを得ない事情、避難したくてもできない事情がそれぞれの家庭にあって、幼い子どもたちも避難先から帰ってくる。原町教会と聖愛保育園は、こうした子どもたちやその家庭の大人たちの交わり

の場、心の拠り所である。原町聖愛保育園は、他の二つの保育園と協力して、30km圏外で共同保育を試みたが、保育方針が全く違い、礼拝はもちろん祈りさえままならない現実と直面した。全体の保育時間が終わり、帰りの挨拶を済ませた後に、「子どもたちと端っこに集まって、こっそりと祈った。独自に保育ができる場所を求めたところ、理想に近い環境が提示された。職員の給与も出ない状況の中、迷ったが、今回、教団からの支援の申出を受けて、そこで新たな活動を始める決意が与えられた。石橋議長と幹事は朴牧師と役員に連れられて、新しい土地を見た。研修所として使われていた建物と土地で、フェンスに囲まれた土地も広く、一方は住宅地、他方は広い畑に囲まれ、安心して子どもたちを遊ばせられる。その地区の名は「江垂(えたり)」。早速、「得たり」と、いつもの石橋議長のだじやれで一同笑いのうちに希望を語りあった。

(藤盛勇紀報)